令和５年度 第２回 厚木高等学校運営協議会　議事録

日　時　　令和５年 11 月 16 日（木）　14 時～16 時
場　所　　厚木高等学校　会議室

１　開会、校長あいさつ
　・第１回の協議により 10 年後の厚木高校についてビジョンの共有を図った。
　　今回、次年度からの４年間に焦点を絞り、目標設定に向けて議論を深めたい。
２　協議①　令和５年度学校評価（中間評価）について（資料２）
　　各グループから説明
　　（委員）SSHⅢ期を目指すに際し、新入生の傾向などに変化はあるものか。
　　→男女比や文理の比が指標に用いられがちだが、むしろ入学後の生徒を伸ばすことが本来である。文理の差は薄れる傾向か。
　　（委員）SSH の取組の外部（特に中学生）への浸透が進むとよい。
　　（委員）SSH のⅢ期以上をめざすにあたり、資金確保のため工夫が必要。
３　協議②　次期４年間の学校目標について（資料３～６）
　（１）資料の説明（副校長）
　（２）2040 年の厚木高校生の姿（資料５）について
　　（委員）「次の時代のリーダーにふさわしい資質・能力」の確認をしたい。
　　（委員）常識にとらわれず、型破りな発想を持てる生徒が求められている。
　　（委員）新しい時代をリードする生徒のイメージを共有したい。
　（３）「４年間の目標となる主な方策」作成に向けて（資料６）（ワークショップ）
　　【生徒・地域部会】【学力・進学部会】に分かれて協議
　　・模造紙と付箋を使い意見共有。
　　・（資料５）の内容を５項目に分け、具体的に考え得る方策の提案。
　　（委員）新たな姉妹校交流先を開拓する
　　（委員）卒業生の協力を得て進路探究を行う
　　（委員）大学での授業に触れる機会をもつ
　　（委員）大学との連携をさらに深める
　　（委員）メンタルケアに関する仕組みを充実させる　　他意見多数
　（４）部会で協議された主な意見の全体共有（各部会より発表）
　　・校内グループの枠を超えた協働
　　・地域、卒業生などの協力
　　・大学、企業等への働きかけ
　　・不登校生徒や支援を要する生徒に対する人的資源や施設面の充実
４　その他　次回日程等の確認
５　閉会

出席者名簿

【学校運営協議会委員】　　任期：令和５年度末まで

栗原　靖之	横浜国立大学　教授
石田　裕昭	神奈川工科大学　理事（令和５年度より就任）
佐藤　弘幸	厚木市立厚木中学校　校長
松本　　茂	厚木高等学校同窓会　副会長（令和５年度より就任）
新倉　啓一	戸室５丁目南自治会　会長
安達　浩志	厚木高等学校ＰＴＡ　会長（令和５年度より就任）
大沢　利郎	厚木高等学校　校長

【事務局・校内担当職員】

小林　恵里子	副校長
神橋　尚子	教頭
有働　隆	事務長
白石　勉	総括教諭（学習推進グループ　リーダー）
杉原　孝治	総括教諭（グローバル教育推進グループ　リーダー）　欠席
中村　友也	総括教諭（進路支援グループ　リーダー）
真壁　宗太郎	総括教諭（生徒支援グループ　リーダー）
諸星　輝一	総括教諭（生徒会グループ　リーダー）
長濱　洋	総括教諭（広報情報グループ　リーダー）

【部会参加職員】

長谷部　俊明	教諭（学習推進グループ）
佐々木　未央	教諭（生徒支援グループ）
伊勢　遼	教諭（生徒会グループ）
石井　多加志	教諭（進路支援グループ）
村木　妃里	教諭（グローバル教育推進グループ）
内野　秀明	教諭（広報情報グループ）